

横浜市の図書館2022（横浜市立図書館年報）

目次

1	沿革	P. 2
2	令和3年度のトピックス	P. 4
3	図書館一覧	P. 6
4	令和3年度 図書館資料統計	P. 8
	(1)蔵書数	P. 8
	ア 図書資料 イ 定期刊行物 ウ 参考資料	
	エ CD-ROM・オンラインデータベース	
	(2)年間受入冊数	P. 12
	ア 図書資料[個人貸出・閲覧用] イ 図書資料[団体貸出用]	
	(3)年間除籍冊数	P. 13
	ア 図書資料[個人貸出・閲覧用] イ 図書資料[団体貸出用]	
	(4)再活用図書	P. 13
5	令和3年度 利用統計	P. 14
	(1)個人貸出	P. 14
	ア 登録者数 イ 貸出冊数	
	ウ 一日平均利用状況 エ 利用状況の推移	
	(2)予約受付冊数	P. 16
	ア 予約受付冊数[館別] イ 予約受付冊数[方法別]	
	(3)レファレンス件数	P. 17
	(4)市外図書館との相互貸借冊数	P. 17
	(5)市内情報拠点化事業 利用実績	P. 17
	(6)移動図書館	P. 18
	(7)音楽映像ライブラリー	P. 18
	ア 利用数と資料所蔵数 イ 館内視聴ブース利用状況	
	(8)図書取次サービス	P. 19
	(9)広域相互利用	P. 19
	ア 他都市に在住の方が、横浜市立図書館で登録した人数（累積）及び貸出冊数	
	イ 横浜市民が、他都市の図書館で登録した人数（累積）及び貸出冊数	
	(10)障害者支援事業	P. 20
	ア 登録者数 イ 貸出数 ウ 録音資料蔵書数	
	エ 点字資料等蔵書数 オ 対面朗読 カ 音訳者登録者数	
	(11)団体貸出	P. 21
	(12)グループ貸出	P. 21
	(13)学校連携事業	P. 22
	(14)ホームページ及びSNS等利用状況	P. 22
	【コラム】図書館規則を改正しました	
6	横浜市の計画と「横浜市立図書館運営実行プラン」	

7	令和3年度 事業のまとめ	P. 24
	重点項目1 誰もが利用しやすい図書館づくり	P. 24
	(1) 図書館のイメージアップと利用促進のための企画・イベント等実施	
	(2) 誰もが利用しやすい図書館サービスの充実	
	(3) 広域相互利用の拡大 (4) 人材育成の推進	
	(5) 地域と連携した読書活動の推進 (6) これからの図書館についての検討	
	重点項目2 子どもの読書活動習慣の定着への支援	P. 26
	(1) 家庭での読書活動の推進	
	(2) 学校教育への協力、学校図書館充実のための支援	
	(3) ティーンズ世代の読書活動の促進 (4) 地域での読書活動への支援	
	(5) 児童サービス担当者連絡会の設置	
	重点項目3 蔵書とレファレンスの充実	P. 27
	(1) 地域の情報拠点としての蔵書の充実	
	(2) レファレンスの充実 (3) 資料の活用と情報発信	
	(表) 企画事業、その他の事業	P. 29
	(1) 全館・複数館事業 (2) 中央図書館の主な事業	
	(3) 地域図書館の主な事業 (4) 周年事業 【コラム】図書館の表彰	
	(5) おはなし会 (6) 保護者向け、施設職員向け講座 (7) ボランティア向け講座	
	(8) ボランティア活動実績 (9) 利用者懇談会等実施状況	
8	組織・職員数	P. 38
9	令和4年度 横浜市立図書館の予算	P. 39
10	他都市との比較	P. 40
11	横浜市立図書館条例・規則	P. 42
12	令和3年度 図書館カレンダー	P. 49
13	図書館配置図	裏表紙

※統計数値は、令和4年3月31日現在または令和3年度年間の数値です。

表紙図版【神奈川蒸気車鉄道之全図（一曜斎国輝（二代国輝） 明治3年12月）】

明治5（1872）年10月14日（旧暦9月12日）、新橋－横浜（現桜木町）間で日本初の鉄道が開業しました。令和4（2022）年、日本の鉄道は150周年を迎えます。

鉄道建設が決定したのは、明治2（1869）年のこと。明治3（1870）年には、民部省に鉄道掛が設置され、測量が開始されました。神奈川県によって埋め立てられた野毛浦の海岸を横浜駅の敷地とし、この野毛浦と神奈川宿青木町を結ぶため、海に築堤を築くこととなります。その後、試運転、品川－横浜間の仮営業を経て、明治5（1872）年に開業。開業式は、横浜・新橋の両駅で盛大に催されました。

開業当初、新橋と横浜の間には、品川・川崎・鶴見・神奈川の4駅が設けられました。車両はすべてイギリス製。1日9往復、片道53分。席は、上等・中等・下等の3種がありました。

鉄道の建設は、世の中の関心を集めたようで、建設決定後の明治3（1870）年ごろから鉄道を題材とした多くの錦絵が描かれています。開業前の絵は、絵師の想像によるものでした。

表紙の図版も、そのうちの一つ。海から横浜を望むこの錦絵には、手前に東京に向けて走る蒸気車が描かれています。左の小高い丘は伊勢山皇太神宮、右手には神奈川宿台町の茶屋街。茶屋街を抜け、画面奥に描かれた橋を渡って横浜に至る陸路と、海を横切る鉄道のルートと比較することができます。

【参考文献】『日本国有鉄道百年史 第1巻』『同年表』日本国有鉄道 1969.3、1972.10

『明治鉄道錦絵』交通協力会 1971.10

『横浜浮世絵 横浜開港160年』神奈川県立歴史博物館 2019.4



※横浜市立図書館では、所蔵する横浜資料をデジタルアーカイブ「都市横浜の記憶」で公開しています。